ほとけの混和会だより

平成二十三年六月
東光院
仏の混和会
第84号

平成二十三年度の課題は、「共に生きる」と定め、努めて参りたいと存じます。

伝教大師様

　弘仁十三年（８２２）六月四日、比叡山をお開きに成られた伝教大師最澄様が五十六年の生涯を閉じられました。

　そこで今月は、最澄様の人徳を偲び、その御教えに少し触れてみたいと存じます。

　最澄様の御生涯において、最も大きな功績は、大乗仏教を修学する道場を、比叡山に確立されたことかと思います。

　その当時の奈良仏教のあり方を、最澄様は「出家された、お坊さんだけの悟りを求めるもので小さな乗り物に過ぎない」と疑問を抱いておりました。

　そこで、出家されたお坊さんも、一般の信者さんも、みんなが乗れる、大きな乗り物に乗って、安心に満たされる、悟りの境地に至る、大乗仏教を修学する道場を、比叡山に確立しなければ成らない、と嵯峨天皇に、懇願されたのです。

　その大乗仏教を、修学する人材養成の方法等を最澄様は、「山家学生式」（サンゲガクショウシキ）と言う書物に記し、再々に渡り、天皇に上奏されましたが、「勅許」嵯峨天皇の正式な許可を頂いたのは、弘仁十三年六月十一日、残念な事に最澄様が、お亡くなりに成られた七日後の事だったのです。

　その後比叡山は、大乗仏教の僧侶を養成する、国家公認の道場として認められ、最澄様の御心は沢山の高僧達に受け継がれて行きました。たとえば、

お念仏の御教えを広められた、
　融通念仏宗の良忍上人、
　浄土宗の法然上人、
　浄土真宗の親鸞聖人、
座禅の御教えを広められた、
　臨済宗の栄西禅師
　曹洞宗の道元禅師
法華経の御教えを広められた
　日蓮宗の日蓮上人などと、
皆、比叡山で大乗仏教を修学されて、一宗の開祖と成って行かれました。

　最澄様が主張された、「山家学生式」を今風に解釈すると、比叡山、又は社会に於いて、仏道を会得しようと志す人は、ただひたすらに「ブッダ」完成された御仏の境地を念じ、毎日の生活、そのものが仏道修行と思って勤めて行きなさい。

　そして会得された御仏の心は、会得された本人、又は社会にとっても、真の宝と成る事でしょう。

　毎日の生活の中で、仏道を求める「道心」その心を持って、人々に接する人を、菩薩と言うのですよ、と言っておられます。

　それでは、毎日の生活を、修行と受け止めて、真の心を抱き、己自身が菩薩として生きるには、どうしたら良いかと言うと、最澄様は「悪事を己に向かえ、好事を他に与えなさい」と言われました。

　これは「言うは易く行うは難し」ですね、私達は、何か不祥事が発生すると、己の正当化を主張し、相手を悪者に仕立てて、事を解決しようとしてしまいます。

　しかし、菩薩として生きる人は、他の過ちを己の責任として受け止め、更に己の功績は、他に与えなさいと言うことなのです。なかなか出来る事ではありませんね。

　又「己を忘れ、他を利するは慈悲の極み也」とも言っております。

　これも、なかなか出来る事ではありません「己を忘れる」とは、己のわがままの心、自我の心を捨てなさいと言う事です。

　自我とは、己を飾り、おごり高ぶる心で自分を偽り、自分に執着し、自分にとらわれる心です。

　何時も、この自我の心を、振りかざして居ると、己の心に、己の心が縛られてしまい、みうごきが取れなくなって、真の自分と言うものを見失ってしまいます。

　そこで、この自我の心を少しずつ捨てられるように努めてみるのです。

　すると。いくら己の我を振りかざしてみても実体が無い、全てが「無」であったと「空」の境地が少しずつ見えて参ります。

　すると、己を忘れて他の幸を念じ、他の幸や、他の悟りを喜びとする「ブッダ」の心である慈愛心が自然に抱けて参ります。

　昨今、生きる事が大変難しく成ってまいりました。

　私自身も、未熟な菩薩として、他の幸を念じ歩んで参りたいと存じます。　合掌

最澄様と空海様は、同じ時に、同じ遣唐使の船団で、入唐されました。

五月二十九日（日曜）北堂の観音様が東光院に、里帰りされました。

　この度の震災により、北堂にお祭りされて居た、観音様の御厨子が大きく崩れてしまいました。

　御厨子を修復するにも大変な費用がかかってしまうので、東光院でお祭りされることと成りました。

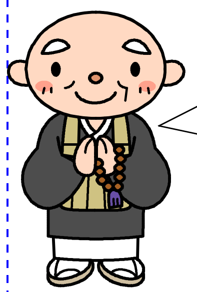
　実は、この観音様は、元々は東光院で祭られて居たらしいのですが、諸事情によって、この北堂で祭られる事と成ったんだと、林慎三さんが、お元気な頃に言っておられたのです。

　ですから、里帰りされたわけなのですね。

　穏やかな表情をした、とてもすばらしい観音様です。

　何とか修復して、皆様の拠り所と成るよう、お祭りして行きたいと存じます。

ねえーねえー
お坊さん、
お坊さんは、何の為に、
どのような
修行をするの？



いやいや、今回も、
難しい質問が出て
来ましたね、
何の為にと言ってもね
マー、一言で言えば、
仏に成る為に修行するの
かな、
修行方法は、各宗の本山
では、定められた様々な
方法があるけど、毎日の
生活そのままを修行と
思えば、色々な事を
学べるよ。

私達は迷いの境地から、仏の境地に至るまで、私達の心の中を、十段階に分けて、修行致します。

地獄道（じごくどう）、己の悪業によって、おちいる、苦しみの境地

餓鬼道（がきどう）、足ることを忘れ、何時も不平不満を抱く境地

畜生道（ちくしょうどう）、食欲、愛欲等による苦しみの境地

修羅道（しゅらどう）、己の正義を貪り、他の過ちを許す事を知らないが為に、何時までも争い苦しむ境地

人間道（にんげんどう）、感謝も懺悔も出来るけど、物事へのとらわれや執着心も抱きやすく苦楽相交わる境地

天上道（てんじょうどう）、物事が成就した境地おごりが起こりやすい

以上が、私達の自我の世界で、迷いの境地です。

この迷いの世界から抜け出して次のような、仏道修行が始まります。

声聞道（しょうもんどう）、仏の道を会得しようと真剣に聞く耳を持つ

縁覚道（えんがくどう）、どのような出来事も、否定して愚痴を言わず全て肯定して受け入れ、仏の導きとして、己の悟りに向かわせる心境

菩薩道（ぼさつどう）、己の悟りよりも、他の悟りの為に尽くし、他の幸を喜びとする心境

仏道（ぶつどう）、一切の迷いの境地を、超越した安らぎの境地

このように、己の迷いの境地を超えて、仏心を抱き、みんなの幸を願う心が抱けるよう修行するんですよ。

お盆参りのご案内

今年もお盆の季節が近づいて参りました。
７月の地域と、８月の地域、合わせてご案内申し上げます。
もし不都合が御座いましたなら、
早めに連絡頂けますようお願い申し上げます。

◎お盆参りのご案内

様宅には　　月　　日 午前 午後　　時　　分頃
お参りさせて頂きます。

お盆の法要は、8月16日午前11時と、8月22日午後2時です。
後日、改めてご案内申し上げます。お問い合わせは、TEL＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊